



ふざけるなっ!!

そうさ!
お前は今から
俺になるんだ



ギシシ
勘がイイな



長らく放浪して
ついに
見つけたんだ
お前を

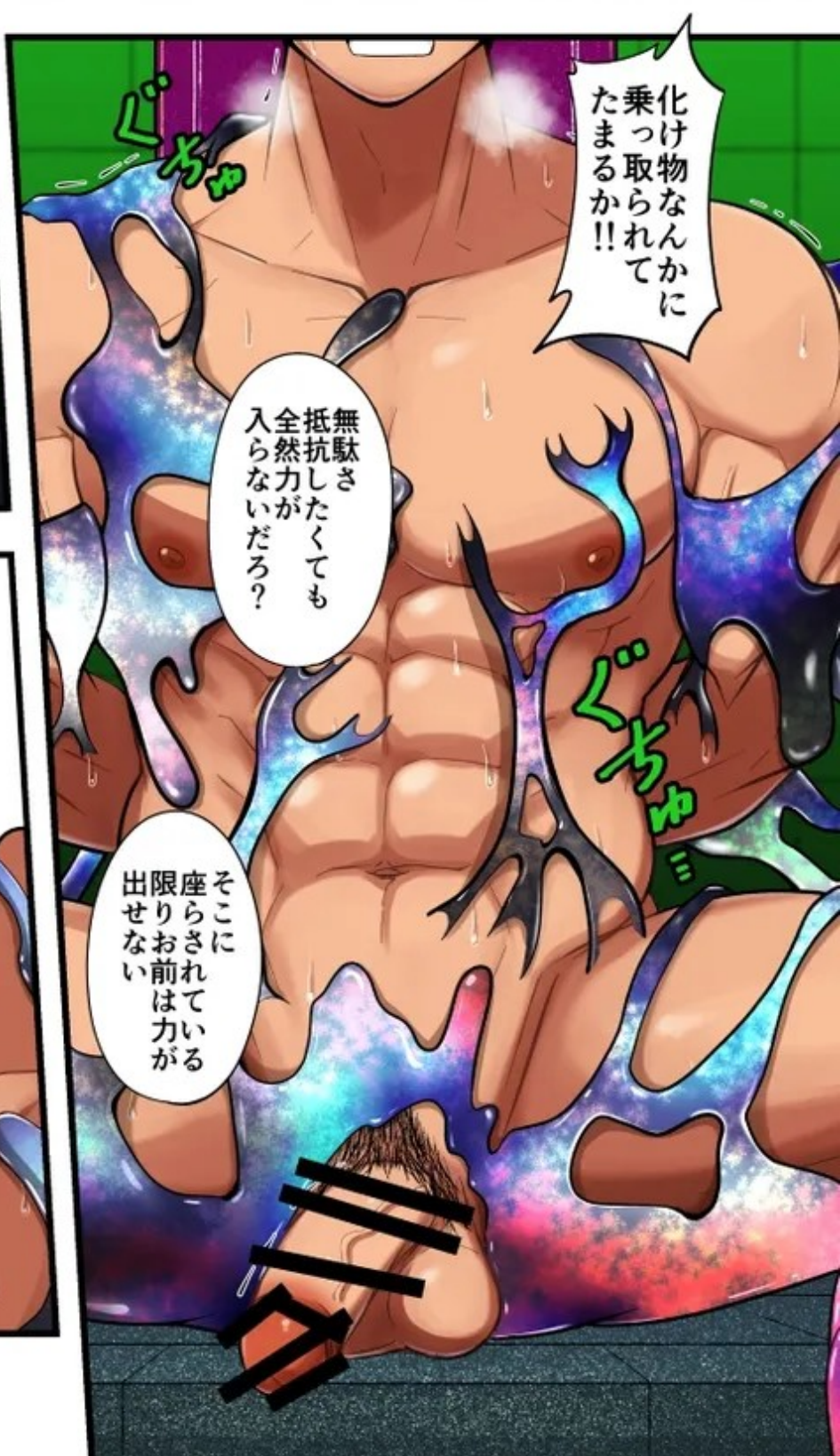
くっ!!

俺の肉体に
なるべき
最高の器をな



ネバネバ野郎が!!

貴様なんか
俺の体は
渡さねえ...



化け物なんか
乗っ取られて
たまるか!!

無駄さ
抵抗したくても
全然力が
入らないだろ?

そこに
座らされて
限りお前は
出せない
力が

言っただろ
もう手遅れだって!!

ううっ!!

ああ……
俺にもついに
肉体が……



しかも計り知れない
力を持った肉体を
得られるなんて
素晴らしい喜びだ



この力があれば
俺は存分に
この世界を
楽しめる



ギョッ!!

わ……
渡して……
たまるか……

お前はここで
絶対に倒す……



俺の使命は……
貴様のような
化け物から

人々を守る
ことだからな……

何て勿体ない！
今までそんな風にか
力を使っていたのか
お前の肉体と力は
もつと
楽しいことに
使うべきだ
そうだろうか？

例えばそうだ

お前が今まで
守ってきた
人間どもを
始末していく

なんていうのも
楽しそうだ

自分たちを
守った男に
殺されると
分かった時の
人間的な顔の
見ているのは
楽しいだろうな

ふざけるなっ！！

そんなこと
絶対させるか！！

ギギ
シシ





ドドド...

!!

諦めろ!
どんなに吠えても
薄れていって
いるだろ?
肉体の感覚が

オオオオオ...

ぐううっ...

こうして
いる間にも
俺の細胞が
お前の肉体の
隅々まで
溶け込んで
いるんだ



どんな気分だ?
だんだん死んで
いくのは

脳まで細胞が
行き届けば
お前は死ぬのさ

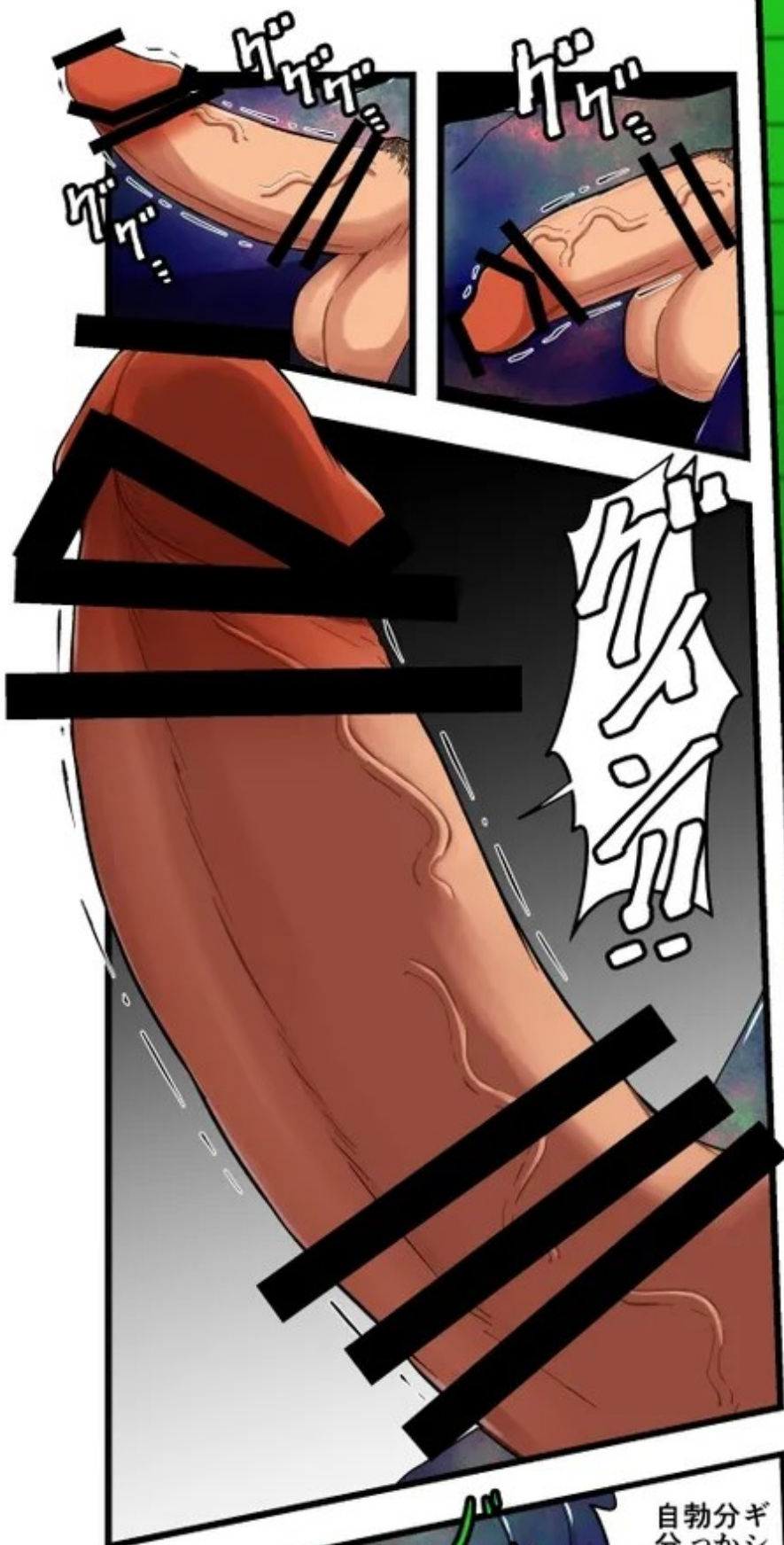
恐ろしいか?

くそったれ...

くちゅ
くちゅ

フキ

フキ



ギシッ!!
分かったか?
勃っただろ??
自分の意思に反して

そく...



それにもう
これぐらいなら
動かせるぞ

うっ...
うっ...

グッ

ヒッ

ヒッ

あああ……

ああ……

ダッダッダッ

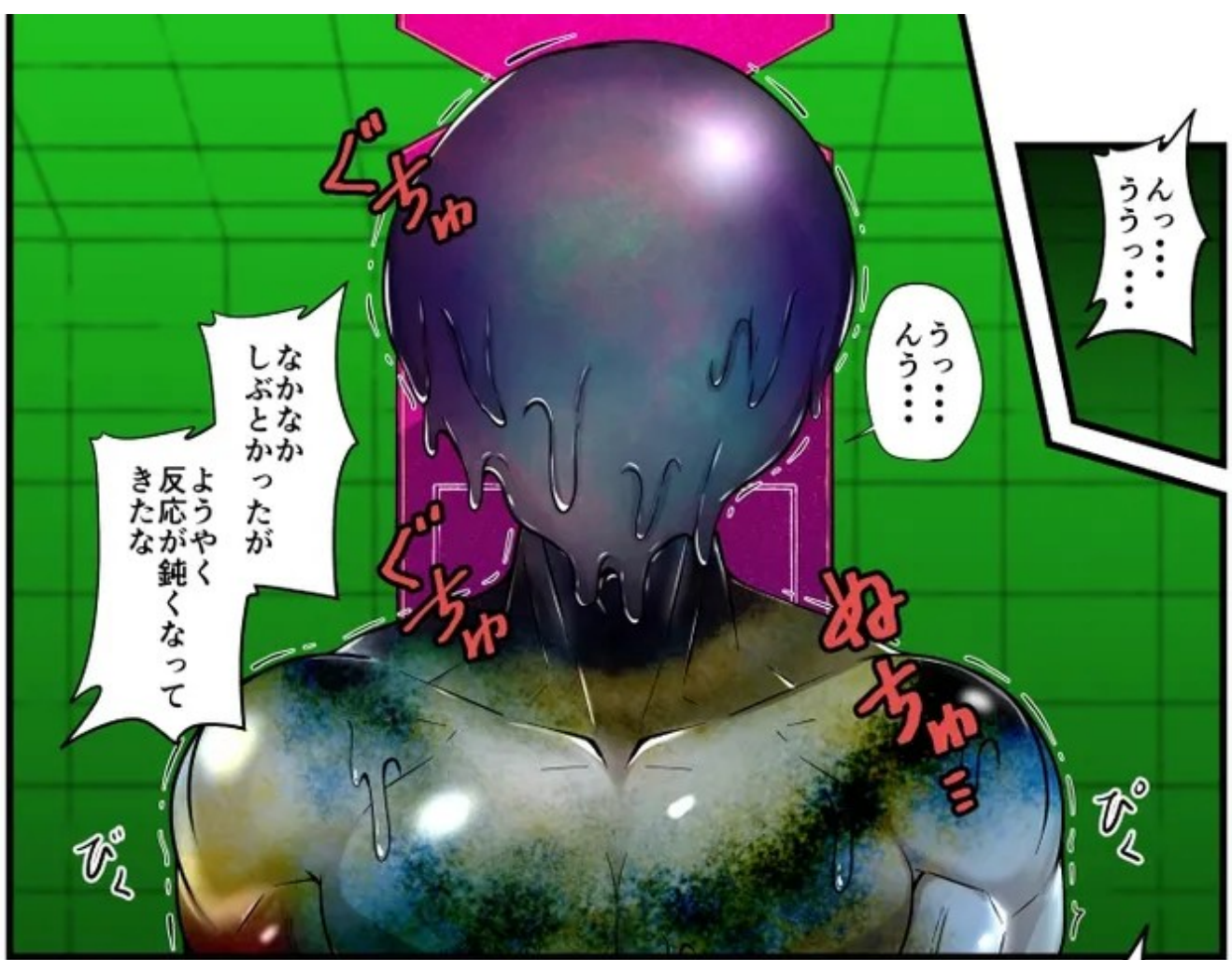
ぐっ……

ぐああ……

……!!

～次回へ続く～





なかなか
しぶとかったが
ようやく
反応が鈍くなっ
てきたな

うんっ...
うんっ...

うんっ...
うんっ...
うんっ...



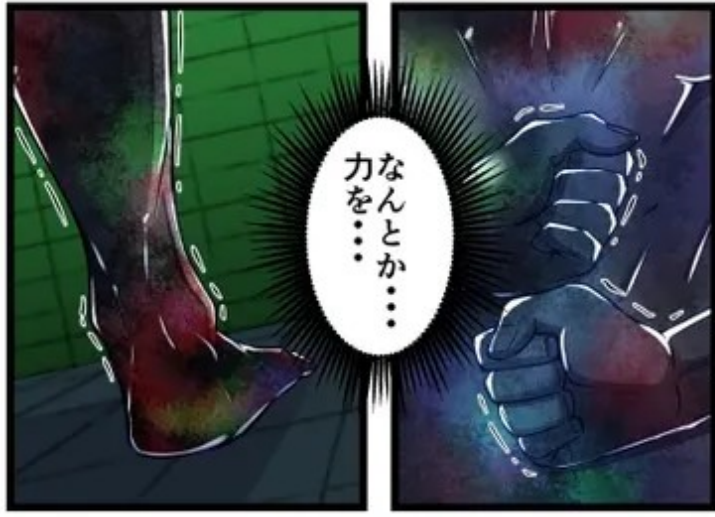
このまま
のまらた
まるかよ...



もうあと
数秒でお
前は死ぬ
んだ!

んんんっ

...
たまるか...



なんとか
力を...



ここで死ぬわけには…



死ねない…
こんないやつに
乗っ取られて
たまるか…

死んで
たまるか…



おおっと!!



俺は…
死ねないっ!!

ふる…



止止お
まお
まらお
らないっ
ない!!



何だ何だ
どうした
勝手に
噴き出したぞ!!



久しぶりの
勢いだかぞ?

どんだん
溢れてくるじゃ
ないか!!

溢れる……?
こいつ……
何言ってる……

何も…
感じねえ…

ズズズ…

んじゃあ最後に
この太いやつを
頂いて…と

ギョム

ギョム
ギョム

ギョム…

ギシシッ
何か言い残すことは
あるかい？
変態くん!!

ドン

ドン

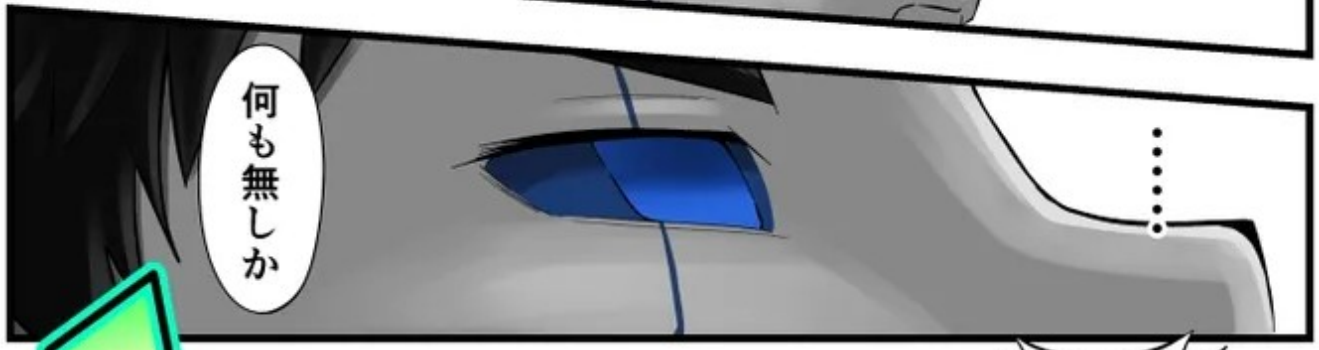
ドン

…



ちくしょう…
意識が…

俺は…
絶対…
諦めな…



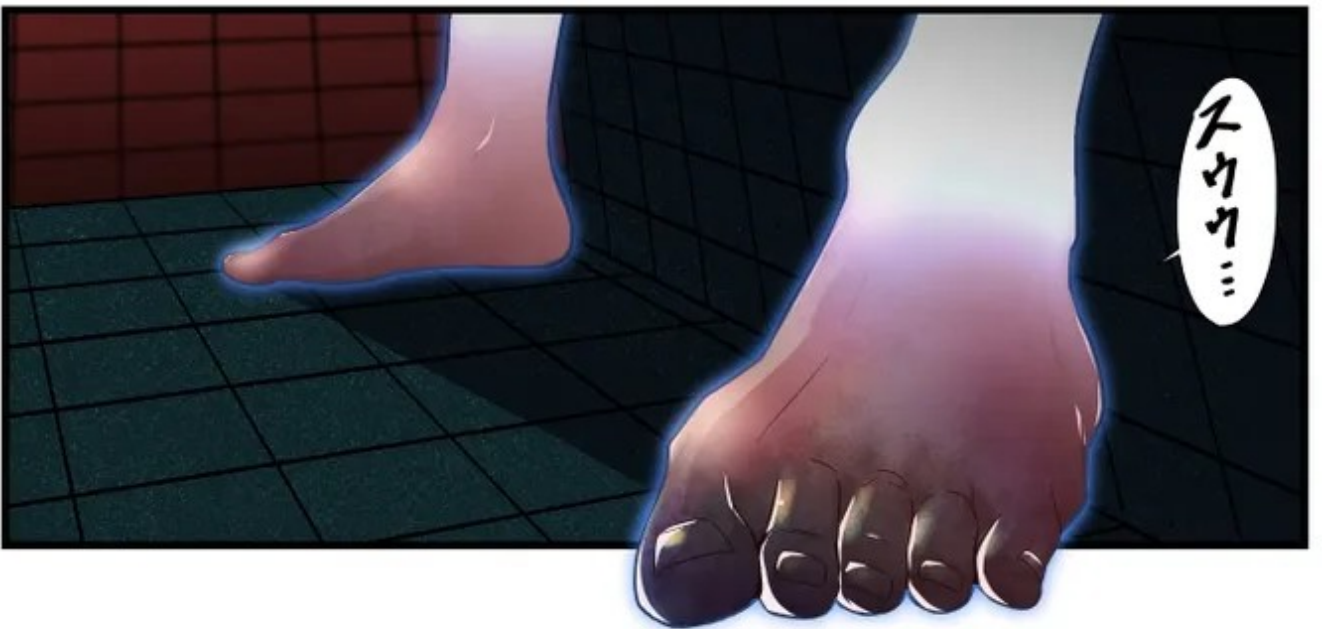
何も無しか

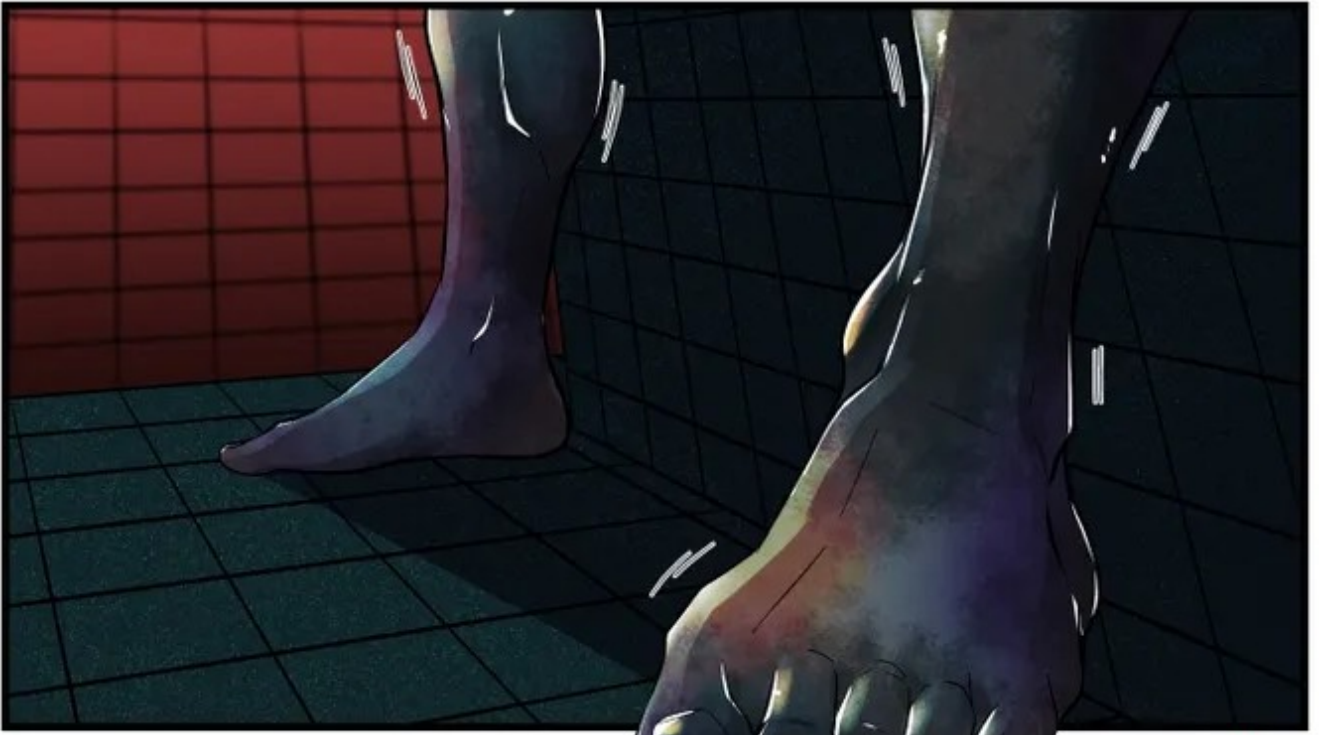
…

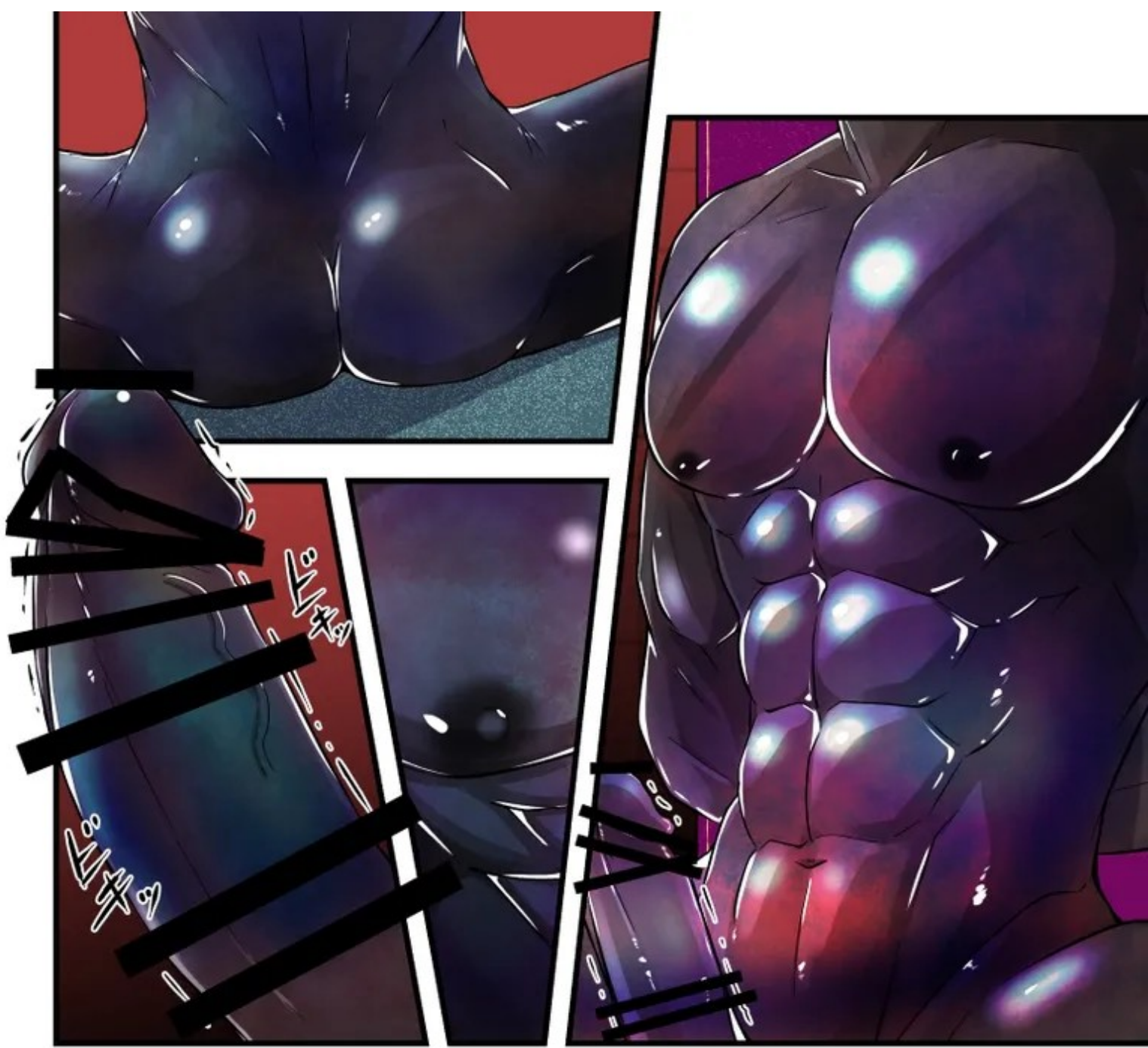


じゃあなっ!!













これが俺の肉体!!
全身に力が漲ってくる!!

グッ

グッ



こんなに凄
想像以上だ!!

グッ



おおっ!!



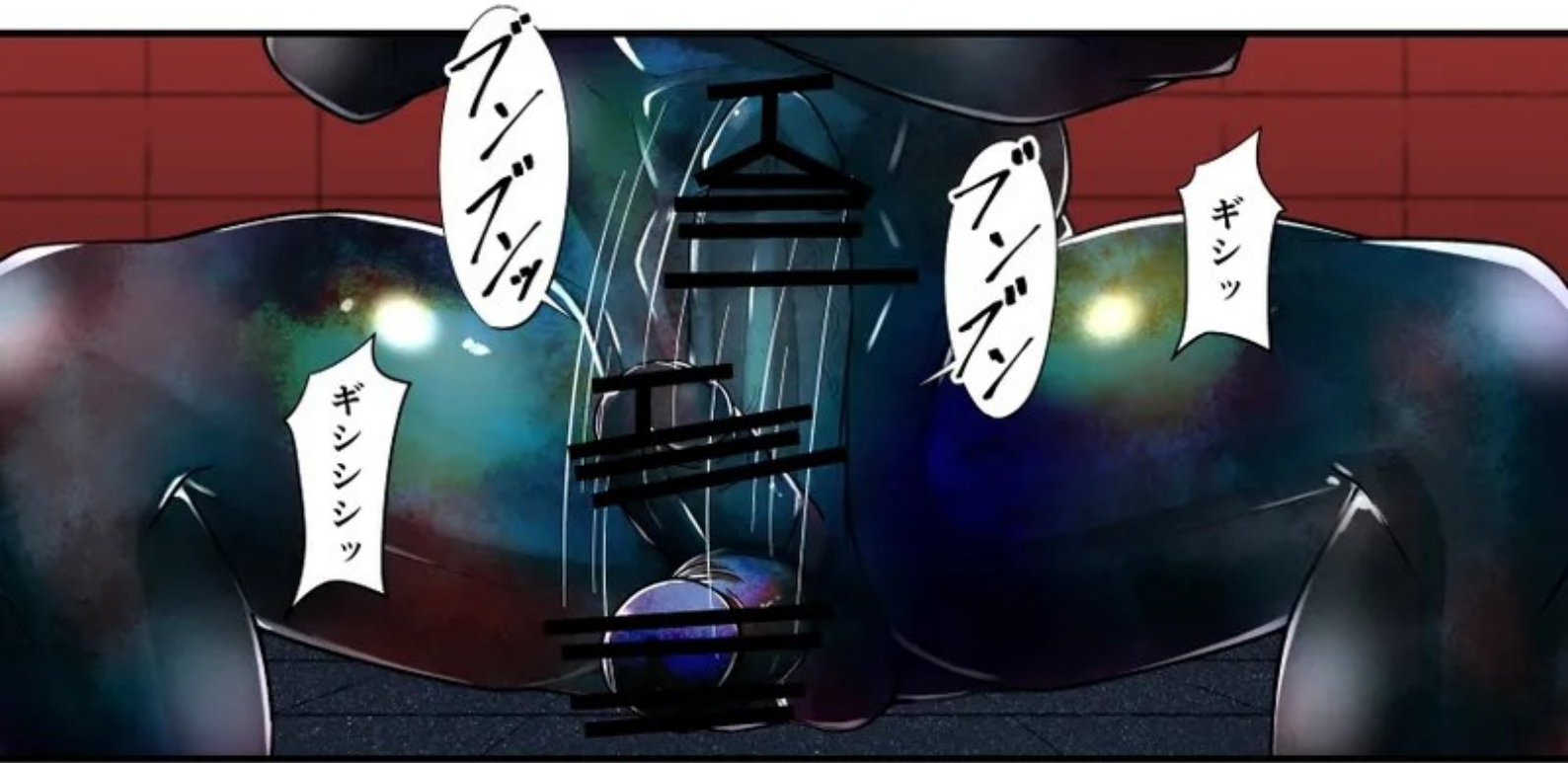
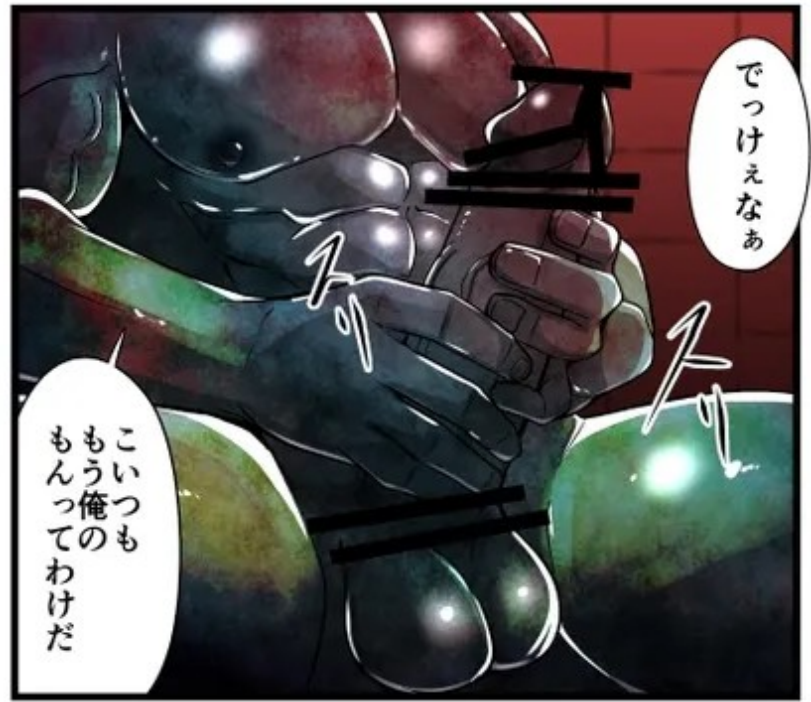
とうとう
手に入れたぞ

この素晴らしい
肉体を!!

ギョウ

グッ

グッ



なるほどな
変態くん

ネクロ・ロクロって
名前だったか

悪くないな

ネクロ
お前のこの肉体
最高の居心地だぜ

～終わり～